

第2回二セコ町自治創生協議会における指摘事項と対応方針（案）

＜町民アンケート＞

指摘事項	対応方針（案）
<p>（八木委員） 約8割が二セコ町内に住み続けたいと回答しているが、特に農業従事者については「住み続けたい」なのか「引っ越せない」なのかという観点での追加分析も必要。 【第2回資料 2-2/ P.63】</p>	<p>✓ 「今後も二セコ町に住み続けたいか」の回答を、農業従事者を分けてクロス集計分析する。【別紙】</p>
<p>（八木委員） 学生の居住希望地についての回答で、「二セコ町以外の道内に住みたい」とあるが、具体的にどの市町村を指すのかまで分析すべき。 【第2回資料 2-2/ P.72】</p>	<p>✓ 「二セコ町以外の道内に住みたい」の回答内容は、札幌市：4件、旭川市：1件、泊村：1件であった。なお、「道外に住みたい」の回答内容は、東京都：1件であった。</p> <p>✓ ただし、総回答者数が少ないため（7件）、アンケート結果の代表性について留意して取り扱う。</p> <p>✓ 必要に応じて、二セコ町内の中学生や高校生との意見交換等によって補完する。【第3回資料 2-3】</p>
<p>（小樽商科大学） 季節雇用か通年雇用かという議論に関連して、二セコ町での働きやすさ・働きにくさのアンケート結果を、年齢毎にクロス集計分析する必要があるのではないか。 【第2回資料 2-2/ P.27】</p>	<p>✓ ご指摘のとおり、クロス集計を行う。【別紙】</p>
<p>（小樽商科大学） 近隣市町村からの移住者が多いことは、裏返せば道外からの移住者が少ないということである。道外から移住するうえで何が障害になっているのか等を検討する必要があるのではないか。 【第2回資料 2-2/ P.56】</p>	<p>✓ 今後、総合戦略の策定プロセスやPDCA サイクルを介して、二セコ町ならではの障害を把握できた場合は、移住・定住対策のさらなる重点化に生かしたい考え。</p> <p>✓ 平成28年度 of 取組内容については、第3回協議会で議論する。</p>

<ニセコ町の人口動態・経済分析>

指摘事項	対応方針（案）
<p>（井上委員） 冬季を除くとニセコ町の人口は増えていないのではないか。</p>	<p>✓ 住民基本台帳を活用して月別の人口動態を分析する。【第3回資料 3-2】</p>
<p>（井上委員） 将来人口の展望部分 P.1 のSTEP.2 表内の数字と P.2 のグラフの凡例が一致していない。【第2回資料3/将来人口の展望 P.1,2】</p>	<p>✓ ご指摘を踏まえ、適切に修正する。</p>
<p>（日本政策投資銀行） 基本目標1について農業と観光が議論の中で重要なテーマとなっていたが、RESASを活用してどのようにしてどれくらい稼いでいるか等、現状分析をする必要があるのではないか。（12月にバージョンアップが予定されており、総合戦略策定に間に合わなければ来年度以降の課題として示すことも考えられるが。）</p>	<p>✓ 12月にRESASがバージョンアップされ次第、まずは追加分析の可能性を速やかに検討する。</p>

第2回ニセコ町自治創生協議会 議事概要（案）

<ニセコ町人口ビジョン骨子（素案）に関して>

■ 人口ビジョン全般について

- ニセコ町は人口推計カーブが当面は右肩上がりとなっており、他の市町村と比べて優位性がある。これをどう定着していくかが重要。（山田委員）
- ニセコ町の場合、自然増減に関しては現在の合計特殊出生率 1.45、社会増減に関しては増加傾向をどう守っていくかが大事。（小樽商科大学）
- 人口ビジョンの数字そのものにそれほどこだわる必要はないのではないか。数字はその地域のみで解決できる問題でもないし、いろいろな施策がうまくいった結果という 1 つの指標として捉えたらよいのではないか。（小磯座長）
- 新幹線の建設をはじめとして工事関係者が多く来ているがやがてはいなくなってしまうであろう。また、暖冬によりニセコのパウダースノーがなくなってしまい冬季の観光客が来なくなってしまうなど、何をきっかけに観光客等が来なくなるかわからない。人口が増えるからといっていろいろな施策を打つのは危険ではないか。その点、社会増減にどう影響していくか。（井上委員）

■ 町民アンケート調査について

- アンケート調査について、回答者の約 6 割が 35～49 歳、属性として親子だと回答している方が約 6 割、回答者にサービス業、パート・アルバイト・派遣の方が多など、アンケート結果に偏りがある点に留意すべき。今後、これらの点を踏まえたうえで、アンケート結果を使用しながら総合戦略の議論を進めていくべき。（小樽商科大学）
- 農業従事者のことをどうすべきか考えることが重要。アンケート調査で約 8 割の方がニセコ町内に住み続けたいと回答しているが、もう少し深く分析すべきではないか。「住み続けたい」なのか「引っ越せない」なのかという観点も必要ではないか。農業従事者の中には農地があるから出たくても出られないと思っている人もいると思われ、農業従事者の回答が否かで出てくる結果も違ってくる感じる。農業従事者にとって冬は長くやることがないものだが、そこを逆に活かして冬に何かができるような施策があれば豊かな生活ができるのではないか。（八木委員）

■ 上記以外の指摘事項

- 学生向けアンケート結果で居住希望地について「ニセコ町以外の道内に住みたい」という回答が選択肢としてあるが、より細かく見るべき。ニセコ町以外とはどこを指すのか（例えば札幌市なのか倶知安町なのか）や若者の転出理由まで分析することで、何が足りなくて、何をすれば若者等の転出を食い止められるかのヒン

- トにつながるのではないか。(八木委員)
- 季節雇用か通年雇用かという議論に関連して、アンケートの深掘りとして年齢と働きやすさ・働きにくさのクロス集計が必要ではないか。(小樽商科大学)
 - 転入に関するアンケート調査について、移住者の多くが近隣市町村からということは、裏返せば道外からの移住者が少ないということでもあるので、道外から移住するうえで何が障害になっているか等の検討も必要ではないか。例えば、まちづくり町民講座の一環として、道外移住者だけを集めて意見交換する機会も設けてもよいのではないか。(小樽商科大学)
 - ニセコの冬季に日本人・外国人とも流入していると思うが、冬季を除くとニセコ町の人口は増えていないのではないか。(井上委員)
 - (資料3 将来人口展望 p.1,2) p1の数字とp2のグラフで凡例が一致していない部分がある。(井上委員)

<ニセコ町総合戦略の方向性(案)に関して>

■ 総合戦略の方向性(案)全般について

- 今回の地方創生は、国全体で力を入れて取り組んでおり、その結果として一億総活躍社会を作るという道筋である。ニセコ町でもできるだけ将来を見据えて、具体的かつ実効性のある計画を作っていく。女性の皆様の意見や様々な場所での住民自治を積み重ねることで、ニセコ町の総合戦略は成熟しつつある。総花的な総合戦略を作っても仕方なく、そこはできるだけ絞り込んでニセコ町ならではのものにしていきたい。(片山町長)
- この地域に住んでいる人が豊かに暮らすためにどうするかというのが大前提。誘導策があってそこに人が住むのではなく、そこに住んでいる人が笑顔で明るく楽しく暮らしている、子育て環境も素晴らしいというのであれば、そこで暮らしたい、そこで子育てしたいと思ってくれるのではないか。住む人が誇りに思える町をどう作っていくかが一番大きな課題であり、その結果として人口や雇用といった課題に発展していくのではないか。ニセコ町内の内発的なものも含めて議論できればと思っている。(片山町長)
- ニセコ町はニセコビュープラザやあそぶっくに代表されるように、住民が白紙から議論を積み重ねて施設を作り、管理運営までを担うような、住民が主体的に行動して自ら町を作っていくという町である。このことが持続する社会を作ることにつながっていくのではないか。(片山町長)
- 東京等に行くと、ニセコ町では外国人がニセコ町の土地を買い占めたり、乱開発をしたりしているのではないかという誤解を受けることがあるが、ニセコ町は古くから環境、水環境を守ろうということで景観条例や環境基本条例等様々な条例を作ってきた。特に水の規制については、全国でもニセコ町だけが懲役や罰金ま

でつけて規制をしている。これは住民の暮らしを私たちが守っていくという覚悟である。こういったニセコ町の文化を打ち出していくことが石破大臣の言う「地方で自分たちの価値を生み出してください」ということなのではないだろうか。（片山町長）

- 経済合理性ももちろん大切ではあるが、地方創生によって社会の中で失われている人間性や基本的人権、心の豊かさというものを、ニセコ町だからこそできる地方創生の戦略の中に埋め込めればよいのではないか。（片山町長）
- 実際に町民が住むことに誇りを持つことが、自治創生の一番の近道。（井上委員）
- 総合戦略策定に向けた議論が、本当に町全体で協働した、町民全員が参加したものになっているのか疑問に感じている。どれだけの人が町民講座等を通じて意見を述べる機会を得られているのかは重要であり、まとめるのを急ぐあまり多様な意見を持つ町民の声を置いてきぼりにしてはならない。（本間委員）
- ニセコ町は他の市町村と比較してレベルが高く、一段階上の議論をしていると感じる。総合戦略は行政が勝手に作るものでなく、住民や民間企業と役割分担しながらそれぞれ何ができるか考えていくことが重要と考えており、そういった観点で行政以外の主体も参加していただけたらと感じている。（後志総合振興局）
- 他の市町村が人口減少に歯止めをかけるためにどうすればよいかといった後向きの議論になっている中で、ニセコ町のような前向きな議論に参加できて大変光栄に感じる。（李副座長）
- 今回の地方創生の意味を改めて考えてみると、人口減少という時代に真剣に向き合って、地域の人々がこれからの自分たちの地域について真剣に考える機会として捉えていくことが重要。（小磯座長）
- ニセコ町の総合戦略の議論の進め方は、ワークショップを開いたり有識者を呼んだり大変丁寧なものとなっている。このプロセスそのものも総合戦略の一部と捉えて、総合戦略を取りまとめていくことが大切。丁寧なプロセスを踏んだことにより、総合戦略としてまとまったものについて、町民が自分も関わったと思えるようなものとして、町民の意識統一ができればよいのではないか。（小磯座長）
- ややもすると人口の数字の議論になりがちだが、ニセコの良さをしっかり受け止めてそこで生活していく人たちの意識に着目していく議論が大事だという声が多い。それを置き換えると、ニセコ町の町民がいきいきとして、ニセコの良さをみんなが共有して、それを伝えていくという総合戦略なのだというメッセージを出すということが、質の高い戦略を生み出すうえで重要ではないか。こういう観点で総合戦略をまとめると、さすがニセコ町となるのではないか。（小磯座長）
- 総合戦略として、外から安定的な投資を呼び込むということも重要な施策である。日本の地方におけるこれからの人口減少下における政策課題の解決方法の先進事例の1つとしてどう取り組んでいくかを問われている。（小磯座長）

- 人口減少時代にどう地域が生き抜くかということを経済的に見ていくと、ニセコ町の人口がたとえ増えているとしても、ニセコ町の経済は開放されており、ニセコ町だけで持っているわけではなく、ほかの地域の人口が減少していく中では経済活動の規模は縮小せざるを得ない。そういった中で地域が経済戦略として持つべきは、域外からしっかり稼ぐことと、外への漏出を防ぎ域内で循環する力を養うことだと思う。そういう点では再生可能エネルギーや観光産業といったものは非常に有効である。人口減少に向き合う経済政策としてニセコ町がこういう戦略をしっかりとっているのだということ大きな枠組みの中で、体系的に位置付けていければ、総合戦略としてのメッセージ性がより高まっていくと感じる。（小磯座長）

■ 基本目標 1 に関して

<雇用>

- 一度外に出た若者が帰って来られる環境整備として、起業支援をしたらどうか。（小野委員）
- 企業向けに Wi-Fi 環境の整備等をして、テレワーク等のサテライトオフィスとして活用してもらえるような場所を作ったらどうか。（小野委員）
- 季節要因が強く影響するニセコで、四季を通して働く方法を確認することが大切。グリーンシーズン（農業）とホワイトシーズン（交通・ホテル・サービス）がうまくまわるような仕組み作り、メニュー化ができないか。（今野委員）
- ニセコエリアでは雇用する側に通年の概念がないとも考えられ、いずれにせよ人手が足りないのが現実。そのミスマッチ解消は、民間主導でも考えることもあり得る。（下田委員）
- アンケート調査からも、ニセコ町は季節にメリハリがあることが明確であり、それが長所にも短所にもなる。このことをどのように活かすかについて重点的に取り組んでいけば、ニセコ町らしい改革ができるのではないか。（八木委員）
- 特に雇用に関して顕著な季節のアンバランスさという問題をどのように解決していくのかということは、ニセコエリア共通の特徴であり、課題でもある。地域として、安定した雇用・所得を生み出す地域づくりを目指すということは総合戦略の目指すメッセージとしても重要なのではないか。（小磯座長）

<農業>

- アンケート調査の結果から、季節雇用が良いという意見と通年雇用が良いという意見がそれぞれ出ていたが、ニセコ町は農業と観光の町であり、もう少し農業に力を入れ、農業をできる人を増やすべきではないか。（青塚委員）
- 農業でニセコブランドを作るために、無農薬野菜の栽培や有機栽培をして、安心安全な食、ニセコのもの食べていけば絶対に安心だということたちでブランド発

信できないか。(本間委員)

- 農業がニセコ町の特徴だという話だが、地名と特産品が結びついたブランディングがされている農産物がないように感じる。農業のブランド戦略がもっとうまくできれば、価格戦略にもつながる。北海道庁の総合戦略の概要にも、ブランド作りが含まれているが、ニセコの知名度を活かせれば何かできるのではないか。(日本政策投資銀行)
- 農業のブランド化を進めれば農家の収入の安定化につながると感じる。東京の親戚にニセコ産のものを送ると大変喜ばれる。この点もっと自信をもってPRしていければと思う。(木下委員)
- 農業に関して、ブランド化していくことは大事だが、シーズン毎の特産品も必要ではないか。キラーコンテンツではなく、食べ物だけでなくワインなどもあるため、食としての組み合わせをニセコ町の農業の特徴とするのも方法の1つではないか。(李副座長)

<環境>

~~➤ エコタウンを目指して、水力や火力の活用をしたり、電気自動車の町にしたりしたらどうか。(本間委員)~~

- 藻谷浩介さんを講師に招いたまちづくり町民講座の議論にもあったが、ニセコ町の環境は最大の地域資源。環境ビジネスをどうプラスに活かして町を豊かにするかという視点を総合戦略に反映すべき。環境モデル都市のアクションプランが動き始めている中で、総合戦略にもそれを活かしていくことがニセコらしさにつながる。(本間委員)
- ニセコが持つ再生可能エネルギーを、地元企業がビジネスとして具体化できるような支援をしていくべき。町外に対して払っているエネルギーコストをどうやって町内で循環させていくかといった枠組みを総合戦略の中で押さえるべきではないか。(本間委員)
- 環境の質を高めていくことは、長い目で見てその地域の価値を高めるということにつながるし、人口減少時代に外の市場と向き合っていく地域戦略として重要。(小磯座長)

<その他>

- 国のほうでも稼ぐ力、地域でどのように外貨を獲得していくかに焦点が当たっているが、素案だとどこに力をいれるかがいまひとつはっきりしていない印象を受ける。一方で今日の議論でも、農業と観光が重要なテーマとなっているが、12月にバージョンアップ予定のRESASを活用して、どのようにどれくらい稼いでいるのか等の現状分析を進める必要がある。12月のバージョンアップとなるので、今年度中の策定が求められている総合戦略に間に合うかどうかということだと思うが、もし間に合わなければ、来年度以降の課題という形で示すことも考えら

れる。(日本政策投資銀行)

■ 基本目標2 に関して

<教育>

- シビックプライドを持つ人材の育成のために、町民はもちろんだが、転入者も含めてニセコ学を学んでほしい。例えば小学生には町内での体験学習、中学生・高校生にはニセコ学といった形で必修にしてはどうか。講座の内容として、羊蹄山麓含めた開拓の歴史や環境保全に関連する条例、町内に残る産業遺産、イベント等の紹介をしてはどうか。(井上委員)
- ニセコプライドを作るために、子どもの教育をしっかりすべき。幼小中高の一貫教育がどうなっているのか気になるが、その中にニセコの資源を活かせないか。例えば、町の誇りと歴史を教える人材として、年配者の方にボランティアとして活躍していただけないか。(小野委員)
- ニセコ町は住民自治の町であり、子どもの教育の中に民主主義をいれてもらいたい。(小野委員)
- 季節雇用の問題も大事であるが、それ以上に子どもたちへの教育が大事だと感じた。子どもたちに「ニセコに住んでいてよかった」「ニセコのここが素晴らしい」といったことを身を持って教え、それを発信していくことがニセコの未来につながるのではないか。(高瀬委員)
- ニセコの良さを伝えていく大人たちが必要。例えば、自転車やマラソン等スポーツを通して子どもたちに魅力を伝えていくことはできないか。(中谷委員(田邊委員代理))
- ニセコ高校としても、高校生に対しシビックプライドを持ってもらうために、形として伝えていかななくてはと感じる。現在、ニセコ高校では、有志生徒がRESASを使って、ニセコ町が人口減少社会を克服するための取組を考える機会を設けている。(中谷委員(田邊委員代理))
- 高校生が一旦町外に出て帰ってくるようにするために、卒業後も同世代で集まるような機会があれば良いと感じる。(中谷委員(田邊委員代理))
- アンケート結果から、高校生の25%がニセコ町に住み続けたいとのことだが、高校生の中には札幌やそれ以外の市町村に行くとしてもそこで生活できるか不安に感じている生徒もいる。そういった子どもたちに対して、例えばニセコにはこんな雇用があるという形でアプローチしていくことも、高校や町の仕事なのではないか。(中谷委員(田邊委員代理))
- 学校での教育について、既存の教育に加えて、子どもたちに自分たちが生きていくために何が必要かを考えたり、自分に何ができるのかを考えたりする機会が必要ではないか。(中村委員)

- 面白い町づくりの一例として、例えば発明大会や暮らしの知恵を発表する会といったものに予算を使ってはどうか。(中村委員)
- 国際交流の豊かな町だから、教育として英語を学ばせることも大事だが、最終的には英語を使いこなして世界とビジネスをしていくところまで見据えた人材育成が必要ではないか。(山田委員)
- U・I ターンを支援するために奨学金制度を整えたり、早い段階から二セコ町の次世代のリーダーを育成していったりすることも大事。(山田委員)
- せっかく国際交流が豊かな地域にいるのだから、外国人に助けてもらいながら英語教育をしていくのも必要なことではないか。(山田委員)
- 二セコ町では「子ども議会」を通して子どもが町政に関わる機会があるが、人材育成の観点からもこの取組を継続していくべきだと感じる。(渡邊委員)
- 今整備しているコミュニティスクールや幼小中高一貫教育といった制度への取組を具体化していくことが重要だと感じている。(渡邊委員)
- 観光に関して、今後外国人観光客が増える一方で日本人観光客は減っていくことが予測される。ますます外国人が増える中でのグローバル人材の育成も大事なのではないか。(日本政策投資銀行)
- 18歳の春に若者が高等教育機会を求めて首都圏に集まる流れに対抗するものとして、高等教育機能の集積戦略が二セコ町でも今後は重要になる。(小磯座長)

<その他>

- 高校卒業等のタイミングで二セコ町の若者が町外に出て行ってしまふことは仕方がないが、その後その子どもたちが戻ってくる受入環境の整備が大事。(木下委員)
- 昨年からは二セコ町でも二セコビジネススクールをやっているが、開講講座数もまだまだ少ない。二セコ町で創業したいと思う人が実際にビジネスを展開していくには、フォローアップ講座やビジネスセミナー等、通年で支援できる体制が必要。(李副座長)

■ 基本目標3に関して

<住宅>

- 住宅を新たに建設するとしても、こういった人向けの住宅を建てるかを考えるべき。(下田委員)
- 住宅と雇用どちらが先かという話があると思うが、まずは住む場所として住宅が大事だと思う。季節によって人手が足りていない状況を踏まえると、住宅さえあれば、季節雇用をしながらでも住む人が出てくるのではないか。(下田委員)
- 定住を促すための住宅確保や子育て世代の経済的負担軽減といったことも考えられるが、もし町として財政支出するならば、それが可能なのかという腹積もりも大事。(山田委員)

- 住宅については、誰が住宅がほしくて、どういった企業が住宅を建てるかということが重要。全体的に人が必要だから町がそれを用意するというだけでは、人が人を呼ぶ、そのために知恵が生まれるということが阻害されてしまう。(中村委員)

<子育て支援>

- 乳幼児を抱えている母親を支援するために、札幌市で実施されている保育ママ制度を導入したり、有償ボランティアの組織を作ったりしてはどうか。(井上委員)
- 育児ママの話が出ていたが、育児ママにお願いするにもお金がかかるため、ユーザーが正社員に限られるおそれがある。パートの方は雇用もなかなか安定せず、低収入であることも考慮すると、幼児センターのほうに預けたいのではないか。その点、幼児センターの受入人数を増やせないだろうか。(木下委員)

<観光>

- 観光について、ニセコ町のキラコンテツとしてパウダースノーの話が出ていたが、昨年学生を使ってアンケートをとって見たら、思ったよりパウダースノーでなかったという結果も出た。本当の意味でニセコのパウダースノーの良さを伝えていくべき。(李副座長)
- 冬にインバウンドできている観光客に、「夏はラフティングをしに来るか」と聞いたところ「来ない」との回答が多かった。同じ人が来るわけでないし、現在観光資源としてコンテツ化できていないものを使いながらターゲットを変えてアピールすべきではないか。例えば健康ブームが叫ばれている中、羊蹄山等を使ったトレッキングもコンテツとして考えられるのではないか。(李副座長)

■ 基本目標 4 に関して

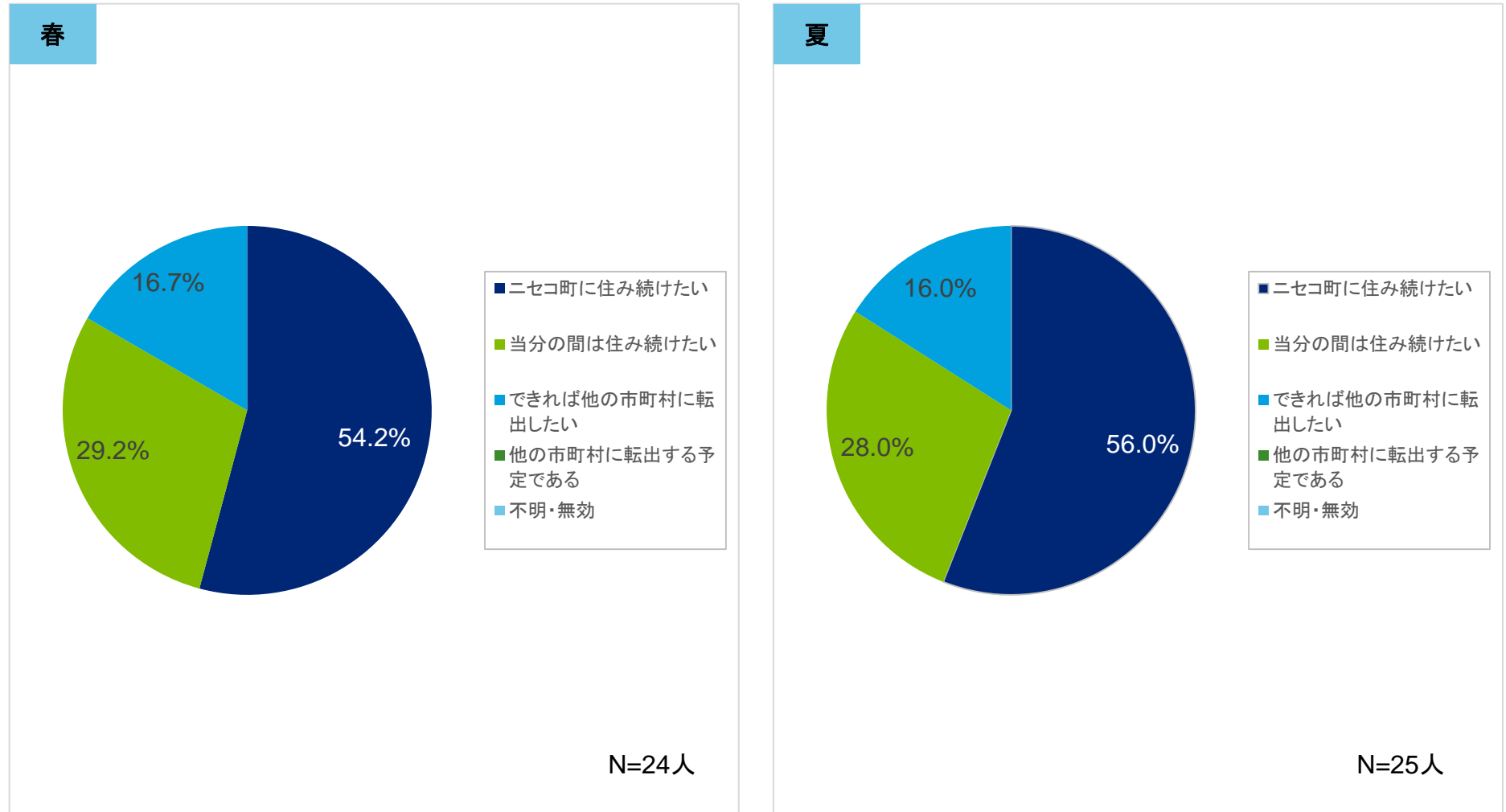
- ニセコエリア総合観光情報発信事業が採択され、デジタルサイネージを導入することのだが、何をコンテツとして発信していくかが大事。一案として、ニセコ町の新雪情報をリアルタイムに伝える仕組みとしてデジタルサイネージを使用すればより価値がある取組になる。(本間委員)
- 後志総合振興局では、観光と農業のマッチングについて取り組んでいくことを決定し、この冬に悉皆調査を始める。この取組は、各管内の農協とも協力しながら、この地域に冬場だけでなく、夏場も残っていきたいという方向けのモデル構築を目指すもの。(後志総合振興局)

町民アンケート追加分析

**問1(5)「農林業」回答者 × 問13「住み続けたいか」
(八木委員指摘事項)**

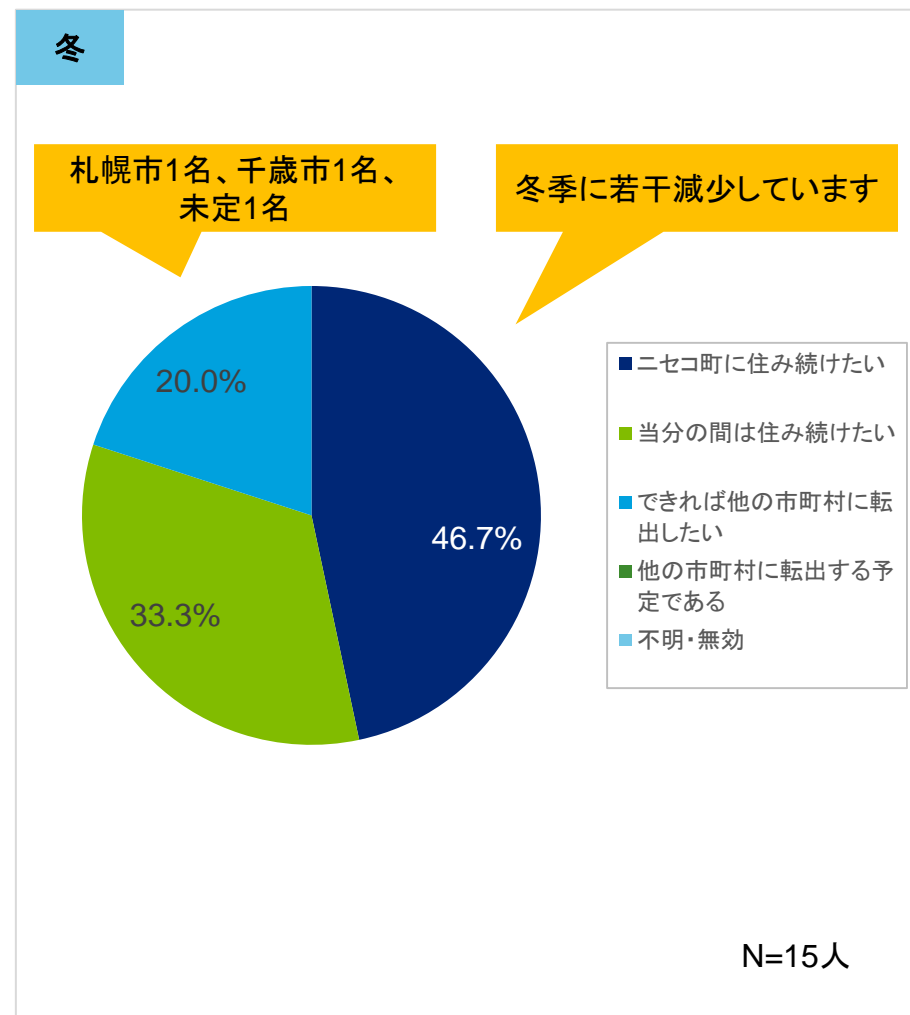
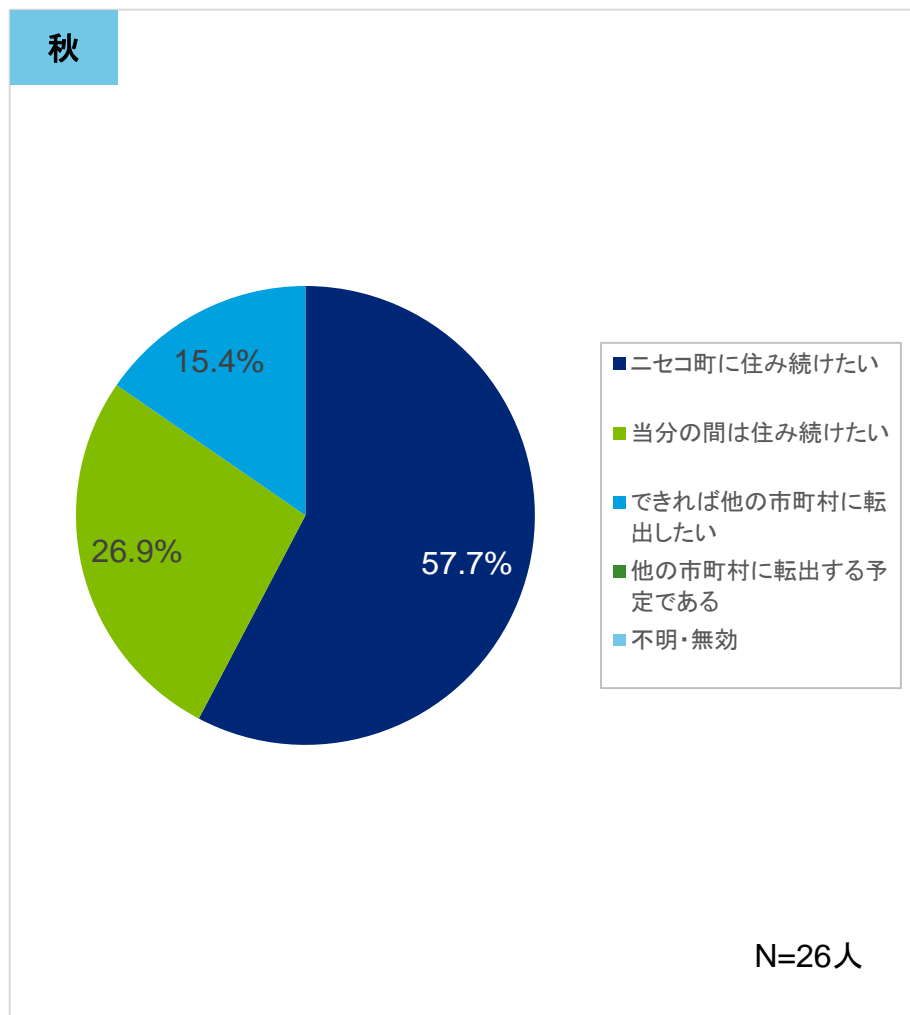
農林業従事者のうち、「ニセコ町に住み続けたい」と回答した割合は春～秋は50%を上回りましたが、冬には50%を下回っています

図1 農林業従事者×今後もニセコ町に住み続けたいか



出所：ニセコ町町民アンケート

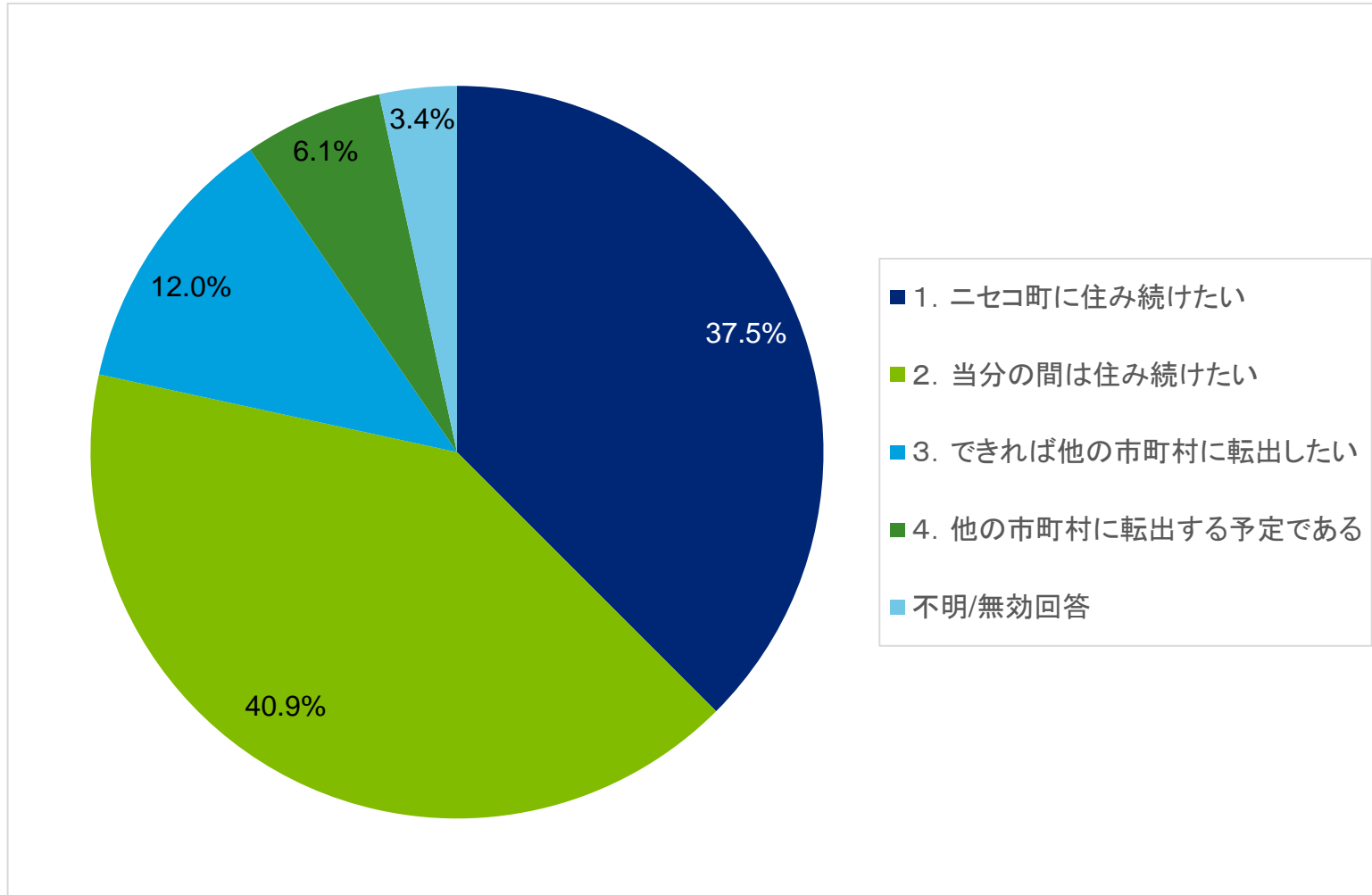
(図1続き)



出所：ニセコ町町民アンケート

【再掲】「ニセコ町に住み続けたい」、「当分の間は住み続けたい」と回答した人が、80%近くを占めています

図2 全体×今後もニセコ町に住み続けたいか

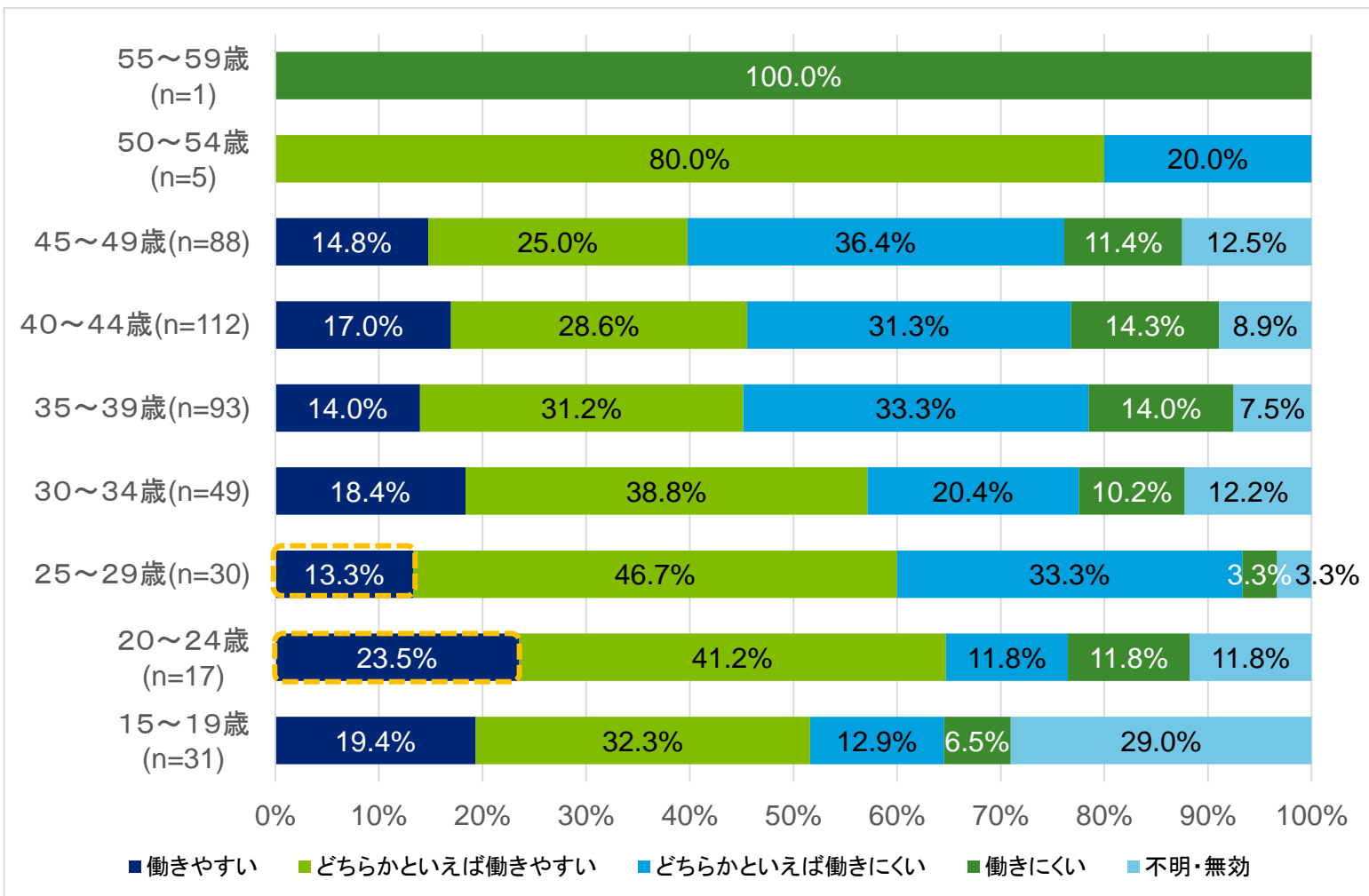


出所：ニセコ町町民アンケート

**問1(2)「年齢」×問3「働きやすいか」
(小樽商科大学指摘事項)**

【再掲】「働きやすい」と回答した割合は、20～24歳で最も多く、25～29歳で最も低くなっています

図3 【生産年齢階層別*】ニセコ町の働きやすさについて



* 生産年齢とは15以上65未満の人口を指すが、本アンケートでは60～65歳に該当する年齢層の回答がなかったため、55～59歳までとしている
 出所：ニセコ町町民アンケート

問1(2)「年齢」×問3-1「働きやすい」と感じるところ

問1(2)「年齢」×問3-2「働きにくい」と感じるところ

(小樽商科大学指摘事項)

【まとめ】

ニセコ町の働きやすさについて

単純集計結果・クロス集計結果のまとめ

1. 単純集計結果(第2回自治創生会議資料2-2より再掲)

- 「働きやすい」、「どちらかといえば働きやすい」と回答した人が47.5%いる一方で、「働きにくい」、「どちらかといえば働きにくい」と回答した人が41.8%います。
- 働きやすい理由としては、「豊かな自然環境を活かせる」が最も多く、次いで「季節雇用等働き方を選択できる」、「通勤がしやすい」が続きます。
- 働きにくい理由としては、「長く安定して働ける場が少ない」が最も多く、次いで「季節雇用等不安定な職種が多い」、「子育てしながら働ける環境がない」が続きます。

2. 男女別クロス集計結果(第2回自治創生会議資料2-2より再掲)

- 「働きやすい」と回答した人は、男性が18.8%、女性が12.9%と男性のほうが高くなっています。
- 男性、女性ともに働きやすい理由としては、「豊かな自然環境を活かせる」が最も多くなっています。
- 男性、女性ともに働きにくい理由としても、「長く安定して働ける場が少ない」が最も多くなっています。
- 女性の働きにくい理由としては、上記に続いて「子育てしながら働ける環境がない」が多くなっています。

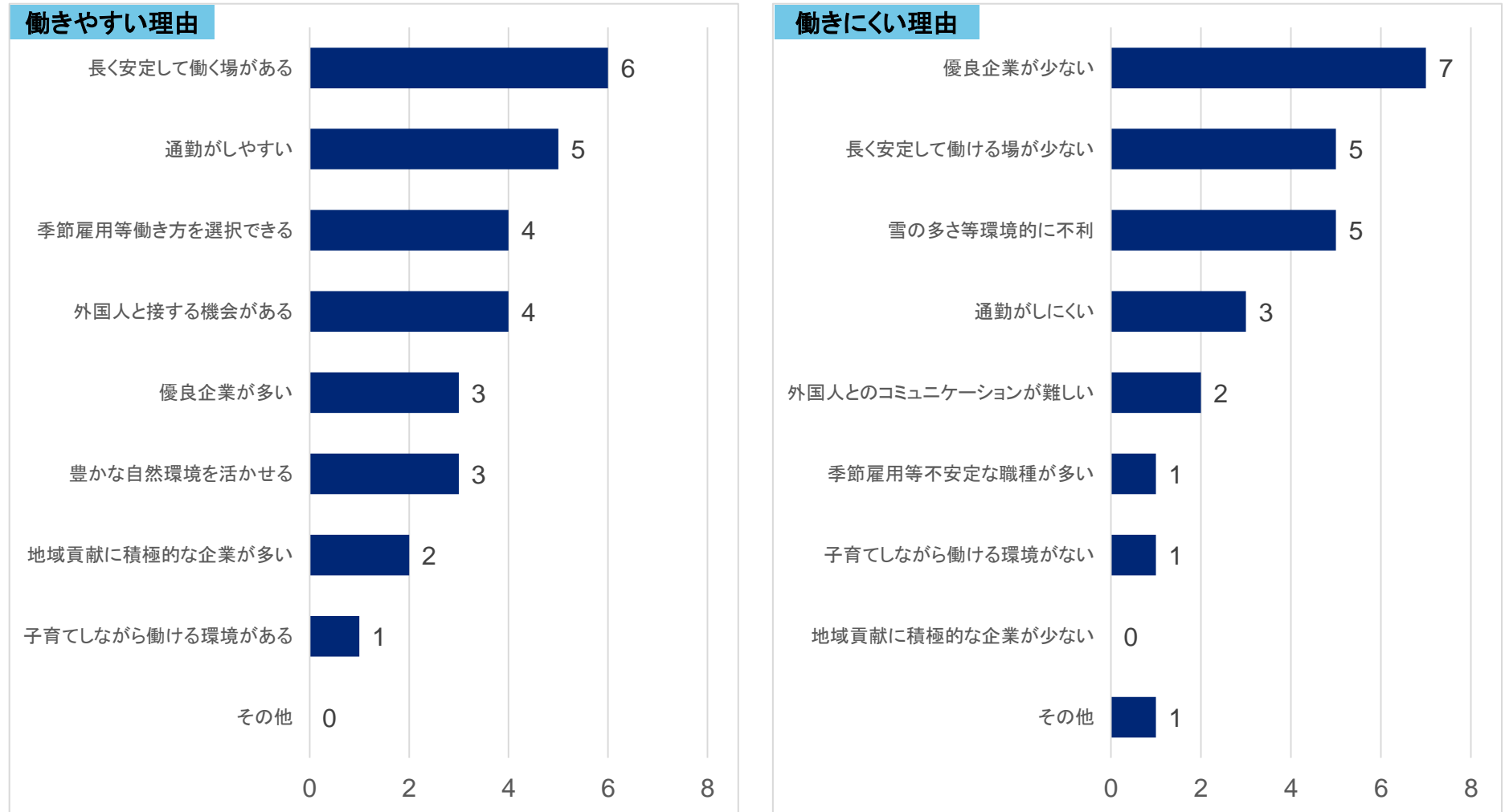
3. 年齢別クロス集計結果

- 年齢階級別の働きやすいと感じる理由、働きにくいと感じる理由で、最も多い理由は各年齢区分毎にそれぞれ以下のようになっています。

年齢区分	働きやすい理由	働きにくい理由
15～19歳	長く安定して働く場がある	優良企業が少ない
20～24歳	豊かな自然環境を活かせる	雪の多さ等環境的に不利
25～29歳	外国人と接する機会がある	長く安定して働ける場が少ない
30～34歳	豊かな自然環境を活かせる	長く安定して働ける場が少ない
35～39歳	季節雇用等働き方を選択できる、豊かな自然環境を活かせる(同数)	長く安定して働ける場が少ない
40～44歳	豊かな自然環境を活かせる	長く安定して働ける場が少ない
45～49歳	豊かな自然環境を活かせる	長く安定して働ける場が少ない
50～54歳	豊かな自然環境を活かせる	長く安定して働ける場が少ない

【15～19歳】働きやすい理由としては「長く安定して働く場がある」が、働きにくい理由としては「優良企業が少ない」が最も多くなっています

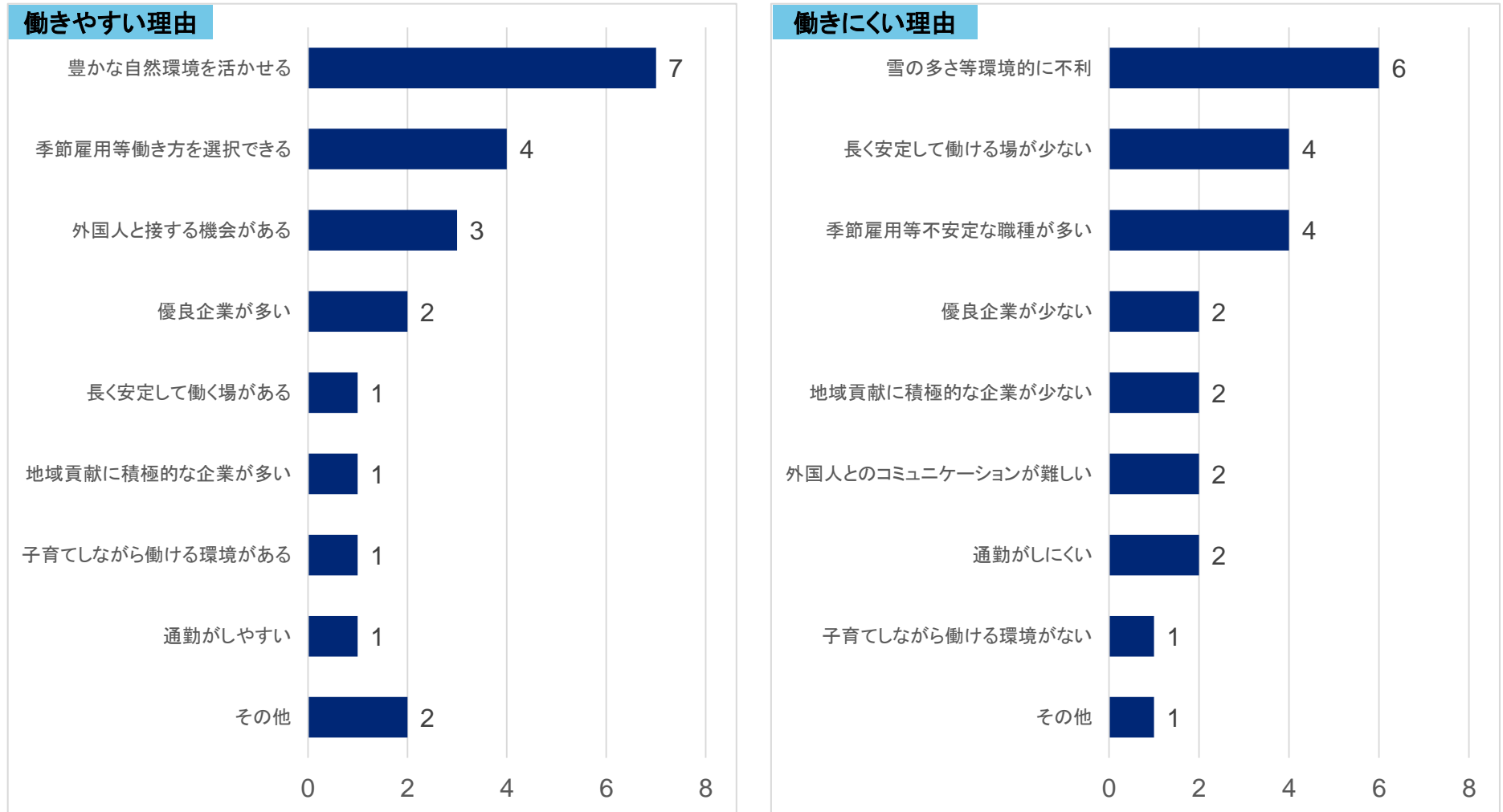
図4 15～19歳×働きやすいと感じる理由、働きにくいと感じる理由(2つまで回答可)



出所：ニセコ町町民アンケート

【20～24歳】働きやすい理由としては「豊かな自然環境を活かせる」が、働きにくい理由としては「雪の多さ等環境的に不利」が最も多くなっています

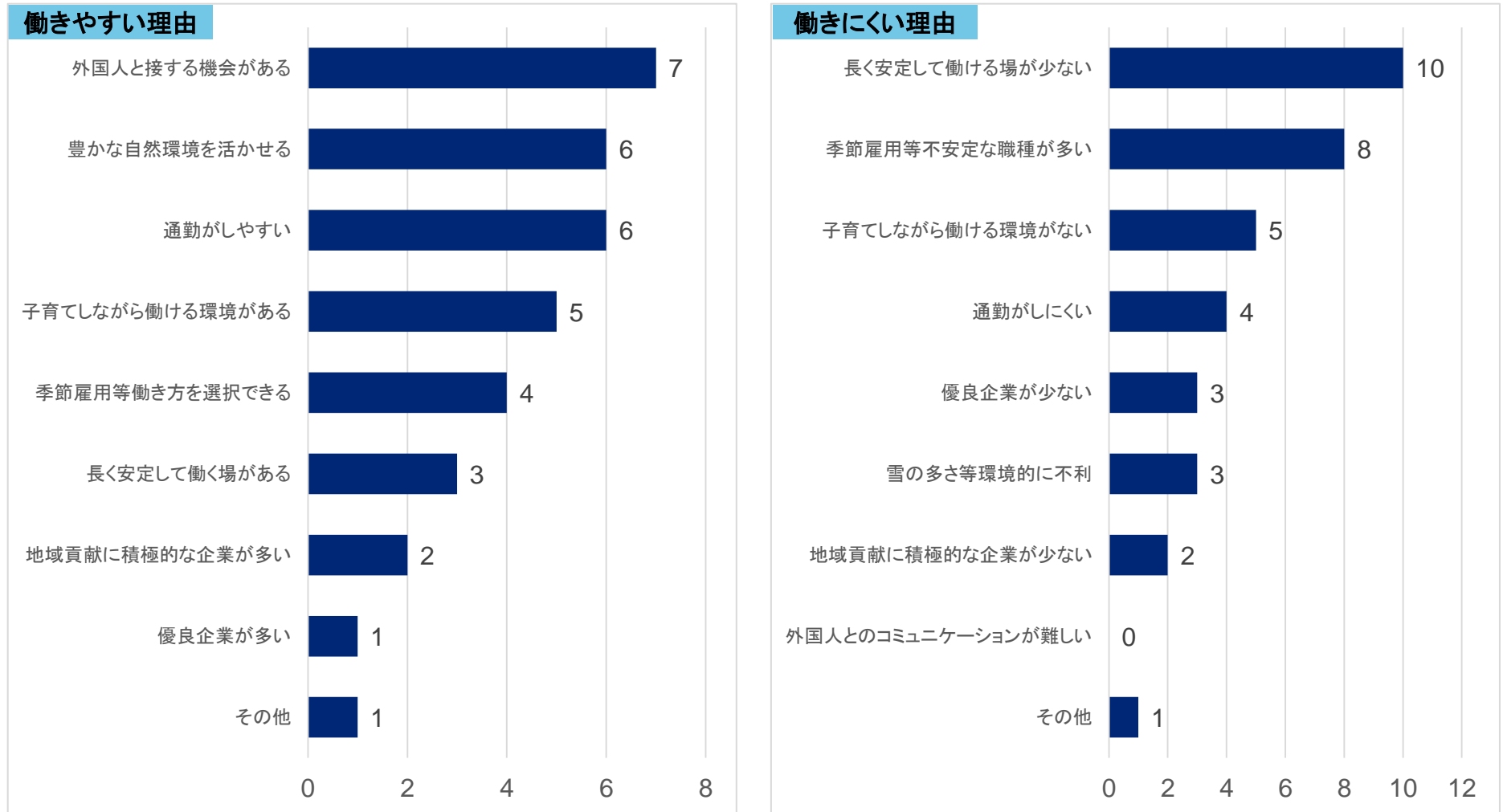
図5 20～24歳×働きやすいと感じる理由、働きにくいと感じる理由(2つまで回答可)



出所：ニセコ町町民アンケート

【25～29歳】働きやすい理由としては「外国人と接する機会がある」が、働きにくい理由としては「長く安定して働ける場が少ない」が最も多くなっています

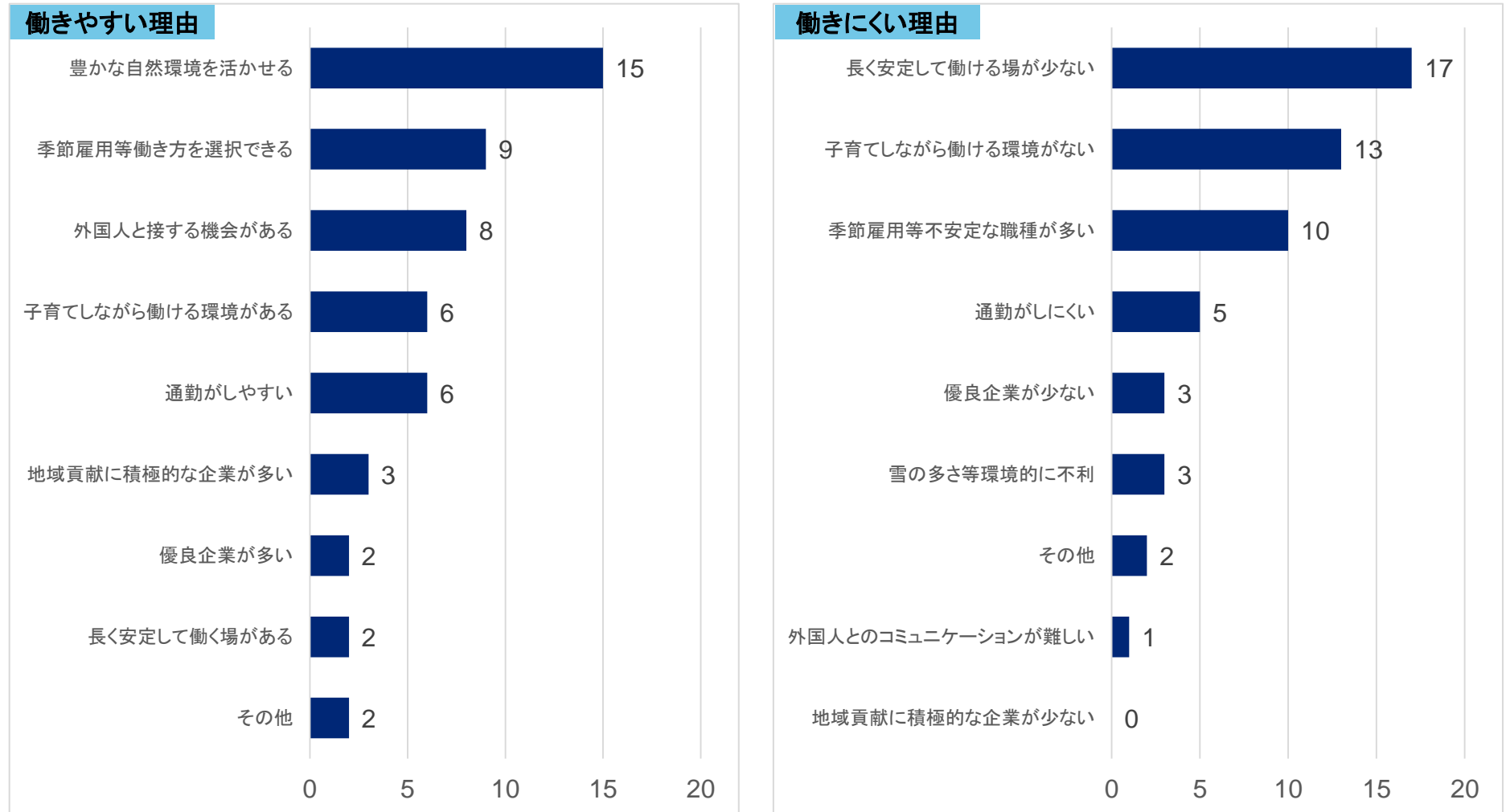
図6 25～29歳 × 働きやすいと感じる理由、働きにくいと感じる理由(2つまで回答可)



出所：ニセコ町町民アンケート

【30～34歳】働きやすい理由としては「豊かな自然環境を活かせる」が、働きにくい理由としては「長く安定して働ける場が少ない」が最も多くなっています

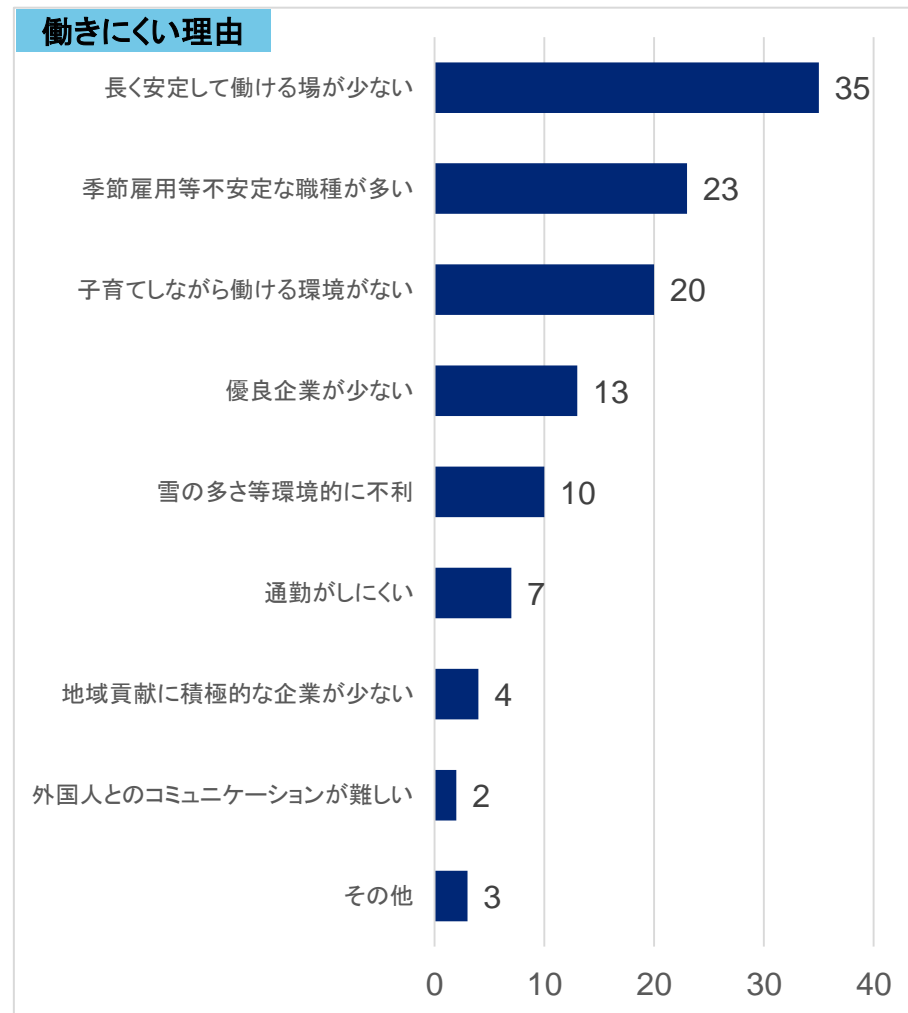
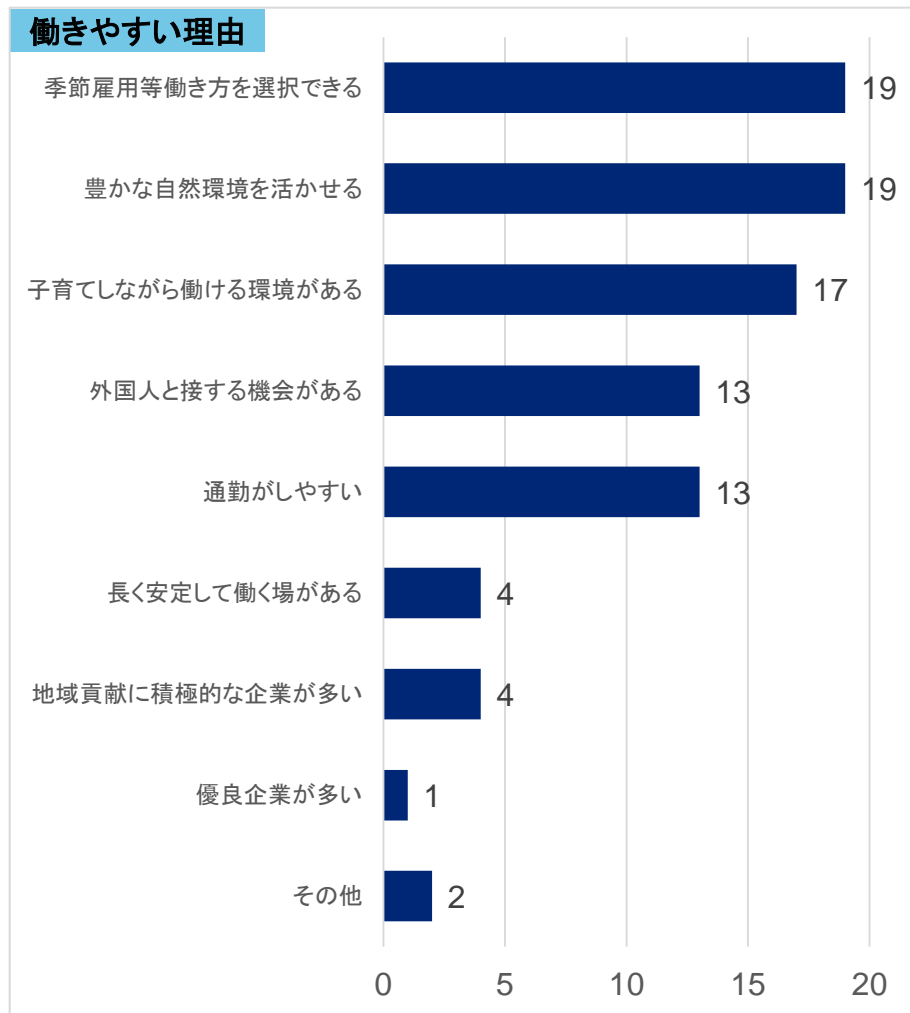
図7 30～34歳 × 働きやすいと感じる理由、働きにくいと感じる理由(2つまで回答可)



出所：ニセコ町町民アンケート

【35～39歳】働きやすい理由としては「季節雇用等働き方を選択できる」、 「豊かな自然環境を活かせる」が最も多くなっています

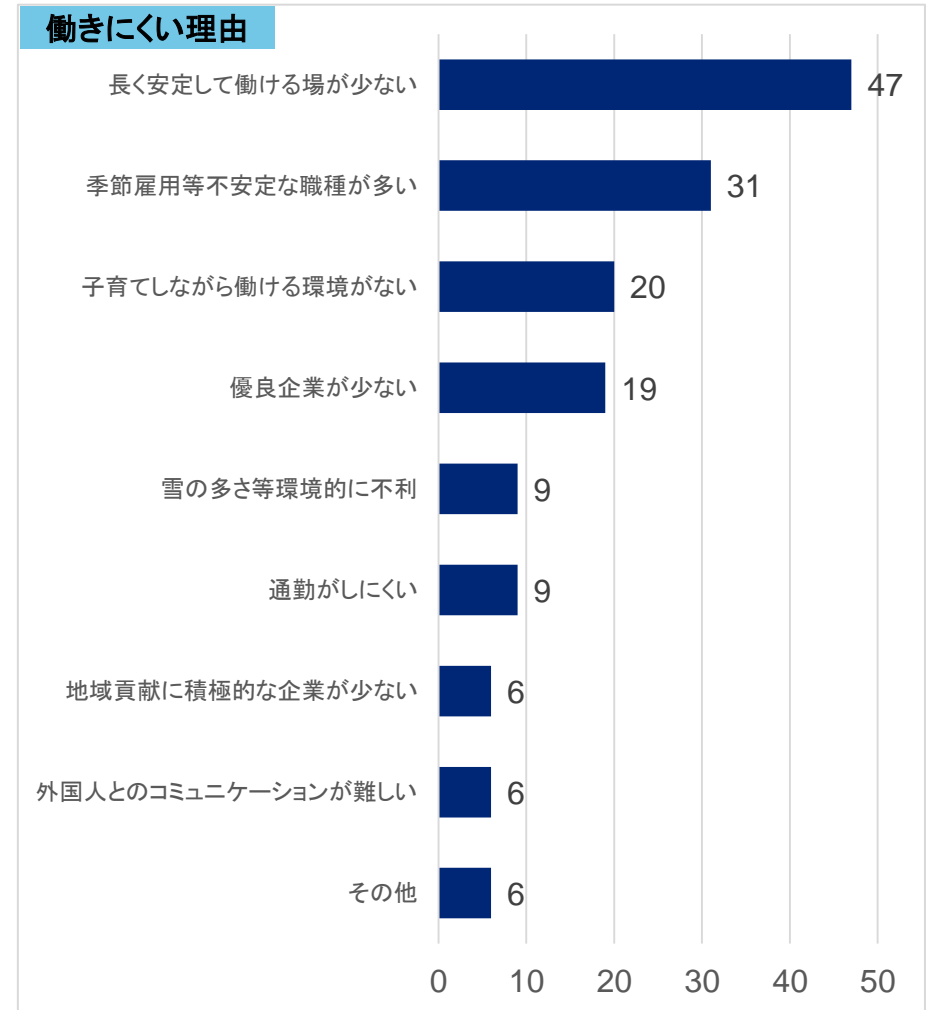
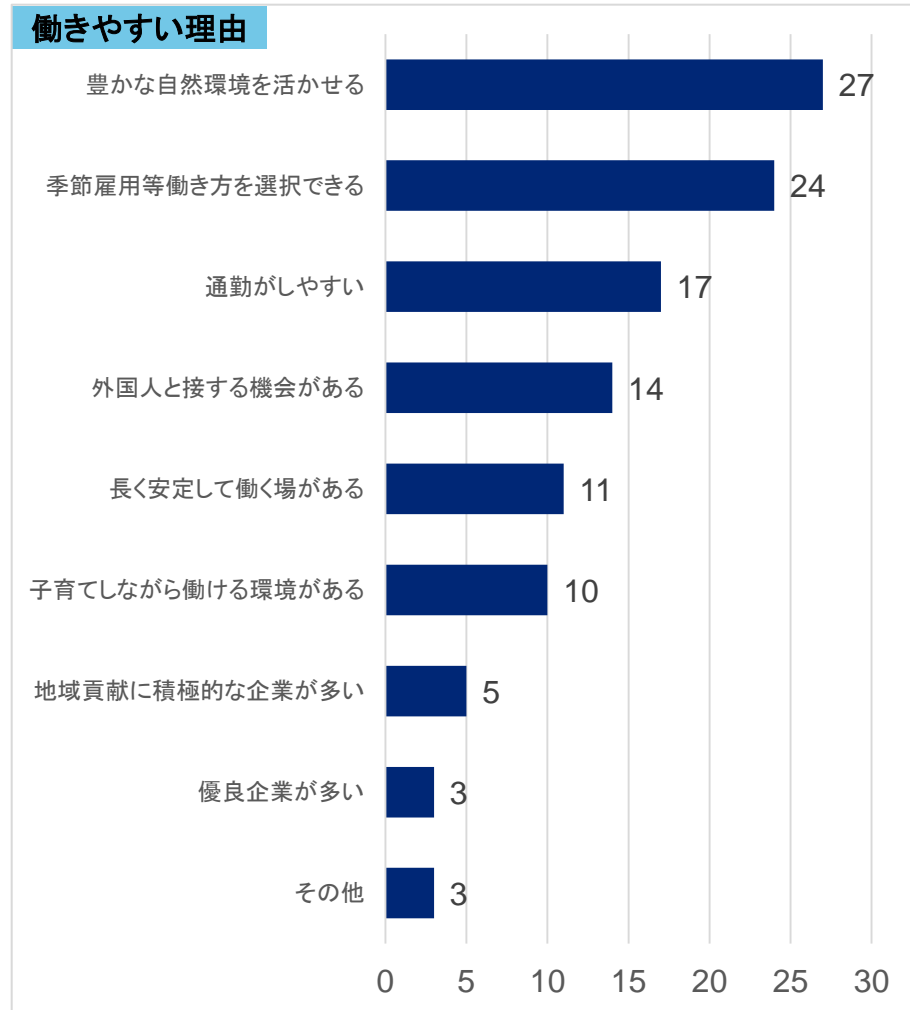
図8 35～39歳 × 働きやすいと感じる理由、働きにくいと感じる理由(2つまで回答可)



出所：ニセコ町町民アンケート

【40～44歳】働きやすい理由としては「豊かな自然環境を活かせる」が、働きにくい理由としては「長く安定して働ける場が少ない」が最も多くなっています

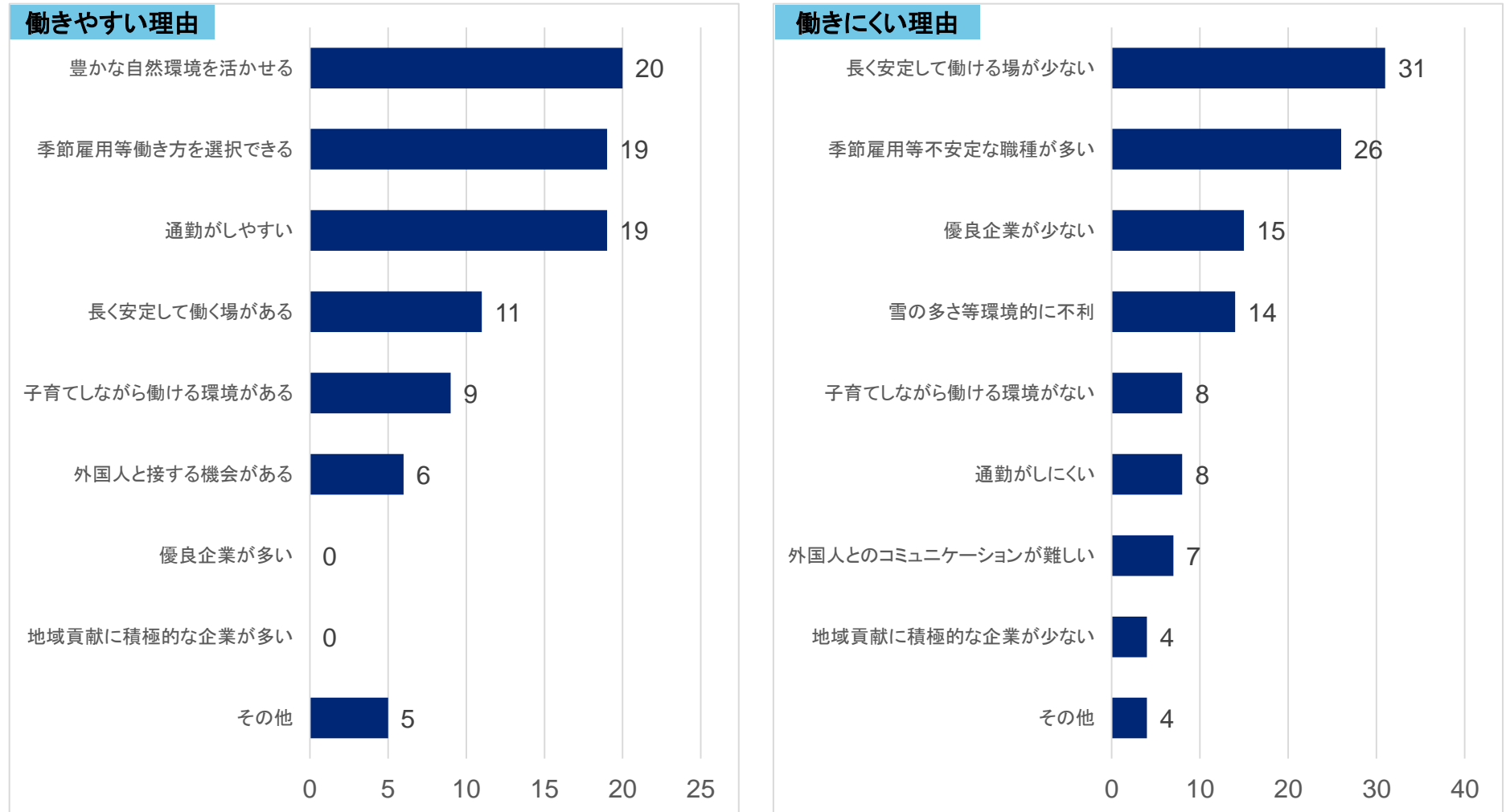
図9 40～44歳 × 働きやすいと感じる理由、働きにくいと感じる理由(2つまで回答可)



出所：ニセコ町町民アンケート

【45～49歳】働きやすい理由としては「豊かな自然環境を活かせる」が、働きにくい理由としては「長く安定して働ける場が少ない」が最も多くなっています

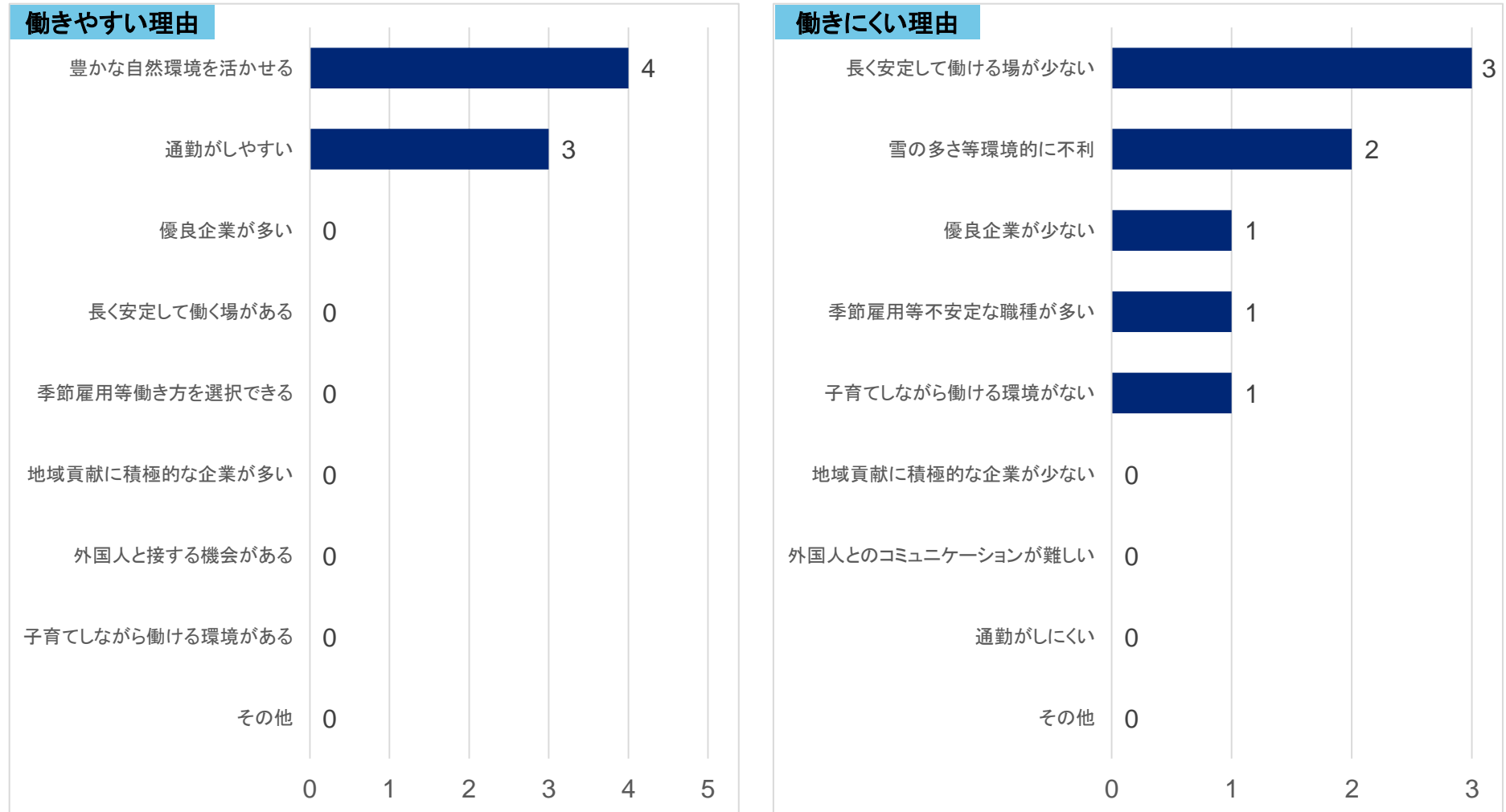
図10 45～49歳×働きやすいと感じる理由、働きにくいと感じる理由(2つまで回答可)



出所：ニセコ町町民アンケート

【50～54歳】働きやすい理由としては「豊かな自然環境を活かせる」が、働きにくい理由としては「長く安定して働ける場が少ない」が最も多くなっています

図11 50～54歳×働きやすいと感じる理由、働きにくいと感じる理由(2つまで回答可)



出所：ニセコ町町民アンケート